



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

放射線治療科のご紹介 — がん患者さんの3人に1人は放射線治療を受けています —

放射線治療科部長 鈴木 義行



平成26年8月1日付けで、放射線診断・核医学・放射線治療の3部門を一手に担ってきた放射線科から放射線治療部門が独立し、放射線治療科が新設されました。現在、放射線治療医5名に加え、医学物理士、放射線技師、看護師等、総勢16名のスタッフで、年間

600名程のがん患者さんの診療にあたっております。

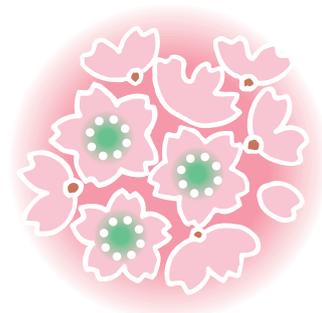
診察は、これまでと同様に高エネルギー放射線棟診察室と放射線（診断）科外来の一部をお借りして行っておりますが、今年の7月頃までには、高エネルギー放射線棟の診察室をリフォームし集約化する予定となっております。治療機器については、現在、2台のライナック（X線治療機器）と小線源治療装置（ラルス）1台が稼働しております。ただ、ライナックについては9年目と18年目の旧型機でして（通常10年程度で入れ替えます）、今後、逐次、最新鋭機器に入れ替えて高度な放射線治療を開始する予定ですが、もうしばらくの間お待ち頂けますよう、宜しくお願いいたします。

さて、放射線治療の分野は、機器やIT技術の進歩に伴い急速に発展を遂げております。特にこの10年程の進歩は著しく、前立腺がんや頭頸部がんに対する強度変調放射線治療（IMRT）はもちろんのこと、骨軟部腫瘍（骨や筋肉にできる腫瘍）などでは重粒子線治療が“標準治療”と考えられるようになりつつあり、まさに日進月歩の様であります。放射線治療を受ける患者さんの数も10年で約2倍となる勢いで増加しており、現在では、日本におけるがん患者さんの“3人に1人”が放射線治療を受けていると推測されています（日本放射線腫瘍学会の全国調査より）。また、欧米では、すでに“3人に2人”が放射線治療を受けており、日本でも、放射線治療が、今後益々重要な治療法として認知されていく事と考えております。

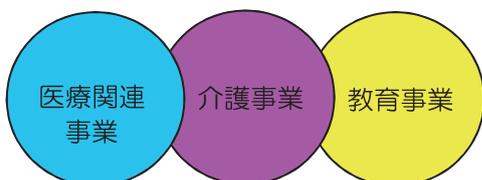
全国を見渡しましても、放射線治療科と放射線診断科が各々独立している大学は少なく（2～30%程）、放射線治療科の新設を決断された福島県・福島県立医科大学、そしてもちろん、福島県民の皆様の御期待は大変大きいものと理解しております。皆様の御期待に応えられる様、スタッフ一同、精一杯努力して行く所存ですので、御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

第29号のなかみ

- 1 ページ……○放射線治療科のご紹介
- 2 ページ……○リラクゼーション法を用いたボランティア活動
○日本一美味しい給食の提供を目指して
- 3 ページ……○D棟1階緊急被ばく対応病室について
○附属病院外来駐車場出入りルート変更のお知らせ
○医大病院無料送迎車をご利用ください
- 4 ページ……○病院ボランティア「けやきの会」へ感謝状が贈呈されました
○平成26年度病院長特別表彰が授与されました
○「消防防災訓練」について



全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町6-6 UNIXビル3F
TEL 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）

リラクゼーションの状態とは、ストレスから解放されて心身ともに落ち着いた状態を指します。誰でもが望んでいることです。このための効果的な方法はゆっくりと腹式呼吸をすることです。血圧が高いときや脈拍が速い時などにも呼吸をゆっくりすることで落ち着いた経験をされた方もおられるのではないのでしょうか。このようなリラクゼーション法を経験されることは患者さんやご家族にとってストレス状態のコントロールに役立つのではないかと考え、一昨年10月から毎週金曜日16:00~16:45まで病棟5階~10階のパントリーでリラクゼーション法を行っています。しかし、5階、6階…と進んでいきますので6週間に1回しか回ってこないということが難点ではあります。

呼吸をゆっくりする方法を何回か練習します。くちびるをすぼめるようにしてゆっくり「ふうー」と吐いて、吐ききったら鼻からお腹いっぱい空気を吸います。このときの吐く

時間と吸う時間は2対1に調整します。このような呼吸の練習を数回やっただ後にCDに合わせて行います。するとほとんどの方が「手足が温かくなった」「気持ちが落ち着いた」などの反応を示します。身体の反応は正直です。血液循環がよくなるので手足が温かく感じるのです。ただ呼吸法を1回経験されただけでこのような反応が起こるのです。日常生活の中でも自分の呼吸に注意を向けて吐いたり吸ったり練習をしましょう。これを長く続けることによって心身をより落ち着いた状態にできるのではないかと思います。手足が冷たくて眠れない方にも呼吸法はおすすめですよ。



日本一美味しい給食の提供を目指して

医事課栄養管理係 係長 真田久美子

栄養管理係では、現在、患者さんが食事が待ちどおしくなる“日本一美味しい”給食の提供を目指して、様々な取り組みを行っています。

きっかけは7年前の平成20年にさかのぼります。当時“きてください 院長さん”に寄せられた食事の苦情が多く、係長になりたての私はその対応に追われていました。何とかしなければと思い、“栄養管理の業務改善をしなければ”と取りかかったのはその年の秋口だったと記憶しています。その時に立ち上げたのが『栄養管理業務改善計画』であり、その時の目標のレベルはせいぜい安達太良山の登山ぐら이었다ったように思います。

3年後の平成23年にこの計画はブラッシュアップされることになりました。当時の医事課長から「係長の目標のレベルは県内一なのか」と聞かれて、「福島医大のレベルからすると日本一でしょうか」と答えると「それでいこう!」とエンジンがかかってしまいました。その時の計画が『業務改善アクションプラン』となり、プランの名付け親は当時の大森栄養管理部長です。それからこの計画は院内でも“話題”になり現在に至っています。

日本一の富士山を目指すにはいきなりは無理なので、地道な努力の積み重ねと給食提供環境の整備が必要です。平成24年3月末に温・冷配膳車を最高のものを入れていただき、同時期に、厨房内も温・湿度管理されて安全で作業しやすい環境にいただきました。また最近では、栄養管理のアピールにホームページを積極的に活用したり、行事食メニューにカードを配って患者さんから意見や感想をいただいたり、化学療法食や小児食メニューを考案したりなどしながら手探りで前に進んでいるところです。

しかし、日本一美味しい給食の提供の取り組みは、別な観点からも評価できるのではないかと最近思うようになってきました。それは、患者さんにとっての“食事”の大切さについて、院内のスタッフにアピールでき、より理解していただ

けるきっかけとなったことです。材料費はもとより業務に必要な経費や職員の研修にも力を入れていただけるようになり、栄養管理は忙しくはなりましたが、今まで以上に仕事に張り合いが感じられるようになりました。これは単に自己評価にとどまらず、患者さんからの客観的な評価にも現れてきていると思います。構想や目標は文言で表現して、組織で共有していくことが大切であると実感しています。

目標までの道のりは長く、富士山頂に“日本一”の旗を掲げるまでは至っておりませんが、当面の目標は五合目までたどりつくことでしょうか。日頃の鍛錬が必要と考えておりますので、今後も栄養管理係にご指導、ご協力のほどよろしくお願いたします。



小児食・オムライス

病衣・タオル・紙おむつ・日用品

手ぶらで入院・手ぶらで退院

アイレンタル



お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口

024-548-8777

*院内1階、院外処方箋FAXコーナー横
月~土曜日 9:00~17:00 (日祝祭日休業)



株式会社アイシステムオフィス

福島第一原子力発電所では現在も一日のべ7,000人が廃炉作業に従事しています。またその周辺ではいわゆる除染作業等が急ピッチで進んでおります。2011年4月以降、国が定めた基準値を超える放射性物質が体に付着した傷病者は発生していませんが、昨今の状況からは今後それが発生する可能性は高いと考えています。

放射性物質が衣服などに付着（「汚染」）した場合、患者さんがお元気でも特別なスペースで診療を行わねばなりません。それは、患者さん・病院職員・病院施設への新たな放射性物質の付着（汚染）拡大を防ぐためです。そして、許容出来ない量の放射性物質であれば、それを付着部位から離してあげ

る（「除染」）必要があるからです。

D棟1階には、万が一が一体表面に放射性物質が付着した、またはその可能性がある傷病者であっても、通常の患者さんと同じ医療レベルを提供できるような配慮を施したスペース（「緊急被ばく対応病室」）を設けます。これは、もちろんケガや病気をされた患者さんのための設備ですが、病院で働く職員や病院を受診される皆様にとっても、この施設のおかげでより放射性物質が病院内に拡散しにくくなり、安心して業務や受診していただくことができると考えています。

福島県立医科大学附属病院は、作業員の健康面を支えることで、一刻も早い廃炉作業の完了をバックアップしていきます。



診療風景



現在の被ばく医療棟処置室

※写真は附属病院放射線災害医療センターのホームページより
<http://www.fmu-rdmc.jp/measures.html>

附属病院外来駐車場出入りルート変更のお知らせ

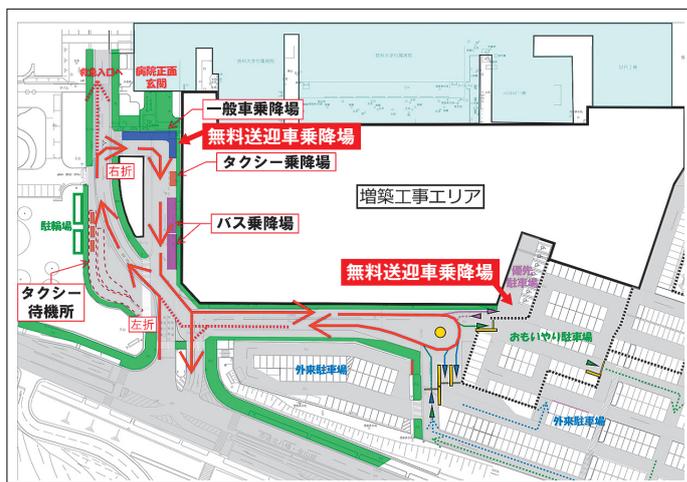
ふくしま国際医療科学センター（D棟）の建設に伴い、外来駐車場への出入りルートが変更されております。大変ご不便をおかけいたしますが、工事へのご理解、ご協力をお願いいたします。

医大病院無料送迎車をご利用ください

福島県立医科大学では、復興に向けた医療の拠点であり、福島県民の健康を守る岩となる「ふくしま国際医療科学センター」の建設が始まりました。そのことにより駐車場から玄関までの距離が遠ざかるなど患者さんを始め、来院いただいている皆さんには大変ご迷惑をおかけしております。中でも「車イス専用駐車場」及び「おもいやり駐車場」を利用される患者さんには特にご不便をおかけしております。

そのような状況をふまえ、当院では歩行が困難な患者さん（※）を対象に、昨年末から「無料送迎車」を導入し、車イス・おもいやり駐車場から病院正面入口までの巡回運行を始めました。既に利用された患者さんからは「いつもは休み休みやっとの思いで歩いていたので助かります。」「このようなサービスがあるなら、これから安心して来ることができます。」など多くの感謝の言葉をいただいております。是非、ご利用ください。

- （※）・車イス・おもいやり駐車場利用の患者さん
- ・身障者手帳の提示をいただいた患者さん
- ・松葉杖等を使用されている患者さん
- ・妊娠されている方



○運行車両



病院ボランティア「けやきの会」へ 感謝状が贈呈されました



2月28日に開催された「第18回ふくしまボランティアフェスティバル」記念式典の席上で、当院で活動しているボランティア「けやきの会」会員へ感謝状が贈呈されました。これは、「けやきの会」の長年にわたる活動に対し、その功績が顕著であることから感謝の意を表されたもので、「福島県知事感謝」は医大病院ボランティアが始まった時（平成10年）から活動されている4名へ、「福島県社会福祉協議会会長感謝」はボランティア歴6年の3名へ贈られました。いずれもボランティア活動が生活の一部になっており、楽しみながら、熱心に取り組んでいる方々です。

毎朝欠かさず、来院患者さんの案内、車椅子の介助等のボランティア活動を行っている「けやきの会」の皆様へ、改めて当院からも感謝致しますとともに、今後ますますのご活躍をご期待申し上げます。

平成26年度病院長特別表彰が 授与されました

附属病院の経営改善や業務改善、あるいは事故の未然防止、教育・研修・診療に特に努力し、それぞれ功績が顕著な団体等に毎年、病院長特別表彰を授与しています。今年度は次の5団体等に決定し、3月11日に表彰式が行われました。

◆検査部

採血業務の中央採血室での集中化、また、検体取り違い未然防止のための検体受付システム（RFID）の構築を図り、患者さんの待ち時間の短縮等に貢献しました。

◆地域連携部

PFMシステムを導入し、入院前から退院後も含めて、一貫した支援を行うことで患者さんへのサービス向上等に貢献しました。

◆心身医療科

心身医療科ショートケア利用者の社会復帰等を積極的に支援するとともに、平成6年から臨床心理職の養成及び教育に関して貢献しています。

◆神経内科

安全管理体制の更なる充実のためにインシデント対策に積極的に取り組み、重大な事故の発生の未然防止に努めています。

◆医事課調理部門

化学療法食の導入や選択食の試行、さらに小児食の充実など患者さん満足度の高い病院食の提供に努めています。

「消防防災訓練」について

病院などの建物の施設管理者は年2回の消防（避難）訓練が消防法にて義務づけられています。当院においても年2回の消防防災訓練を毎年実施しております。これは万が一火災が発生した場合に医師、看護師、その他の職員がどのように行動し、患者様方を安全に避難させることができるか、また職員の初期消火における消火器や屋内消火栓の使い方や消防署への通報等の訓練を行うものです。



去る2月6日に夜間を想定した消防訓練が、附属病院10階において行われました。夜間は昼間よりも職員が少なくなるため、一人一人の行動がより重要となります。9階の職員も応援に駆けつけて、

10階の火元となった場所から安全な避難場所へと自力歩行困難患者に見立てた職員等を車椅子やストレッチャーに載せて次々に避難させることができました。



また、屋内消火栓による消火活動、防火扉を閉鎖するなど、一連の動きをスムーズに行うこともできました。

当院は、火事を発生させないことはもとより、火事やそれ以外の自然災害が発生した場合にも安全な病院となっていますので御安心いただくとともに、今後も継続して消防訓練を行い、より安全安心な病院を目指していきます。

皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331（受付時間：平日午前9時から午後5時）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

